

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第4回 双柿舎からの寄贈資料②

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

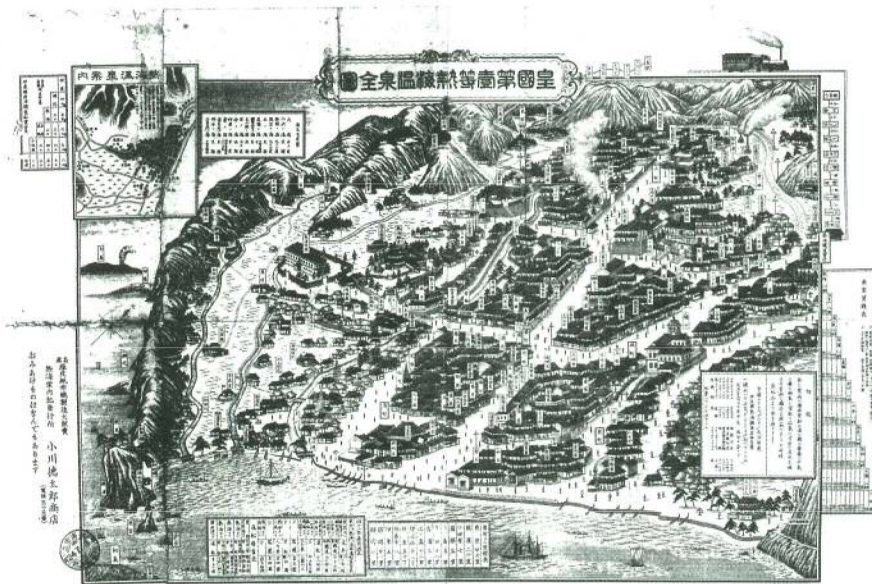
坪内逍遙の別荘であった双柿舎から熱海市立図書館に寄贈された郷土資料の中には、熱海の歴史に関わる書籍のほか、熱海を中心とした古地図や観光資料が多数含まれています。特に、明治、昭和期に人気のあった「鳥瞰図」は、熱海や伊豆などを紹介した地図が多数あり熱海の町の変遷を学ぶ貴重資料となっています。

・皇國第壹等熱海温泉全圖

明治13年から41年までの熱海の町を細かく表現した多くの地図から、大湯の湯煙りを中心に発展していく町の様子がよくわかります。

例えば、明治13年版で「熱海学校」だった土地が、15年版では「三菱所有地」となり、18年版では「宮内省所有地」に、24年版では「熱海離宮（御用邸）」になるなど、4枚の地図を見るだけでも明治期の町の変化が分かります。また、明治41年版では、水道が引かれ、電線が張り

巡らされ、軽便鉄道が運行するなど、今から107年前の熱海の近代化の様子がうかがえます。



皇國第壹等熱海温泉全圖 明治41年版

に観光バスの営業をしていた富士屋自動車製作所が製作した3枚組のドライブマップです。

「昔は馬で登り、駕籠で越した箱根八里の嶮道も、今は文明の利器に恵まれて、あらゆる交通機関が備はり、居ながらにして探勝十二湯巡りが出来るようになりました」と、箱根遊覧を案内。また、「富士屋自動車は、沼津から絶景十國峠を越えて、一路熱海温泉に向ふ乗合を運轉しています。賃金僅かに一圓八十銭で列車の二等の二圓五十八銭に比する時は、いづれが便利であるか、敢説くまでもない事です」と、バス利用の良さを伝えています。

逍遙からは熱海のほかに歴史のある「箱根」や「鎌倉」の資料も寄贈されています。今回は「箱根遊覧路線圖」をご紹介します。

・箱根遊覧路線圖

発行年は不明ですが、まだ東海道線が御殿場経由の時代、箱根を中心

図書館では今回、明治期の熱海の変化と発展の様子を、市民の皆さんにご覧いただけるよう「皇國第壹等熱海温泉全圖展」を開催します。

鳥瞰図で見る、明治期の町並みに当時の生活を感じます。ぜひ、お楽しみください。

市長メッセージ 91 台湾でのトップセールス

熱海市長 齊藤 栄



5月下旬に台湾で行われた台北国際観光博覧会で、伊豆半島の魅力をプロモーションし、伊豆半島への誘客を図ることを目的に「美しい伊豆創造センター」加盟市町12人の首長（市長および町長）でトップセールスに行ってきました。

台北国際観光博覧会の会場は、ラッシュアワーを思わせる混雑ぶりで、国際観光への意識の高さを感じました。特に20代の若者が多く来場していたように見受けられ、台湾の国際観光に対するエネルギーを感じました。

台湾は今、経済成長が目覚ましく、人口約2300万人の半分が海外旅行をしています。世界ジオパークを目指す伊豆半島にとっても巨大なマーケットとなる可能性を持っていますので、今回のトップセールスの役割は重要です。

また、博覧会2日目には、各市町が3分間のプレゼンテーションを行いました。熱海市は、花火大会・芸妓の舞・梅園・街の全景を映像を使って紹介してきました。特に花火大会を観光の目玉に紹介したのは熱海だけでしたので、台湾の人たちに和食（海の幸）と並んで興味を持っていただきました。

「伊豆はひとつ」を具体的に進めていくための「美しい伊豆創造センター」は、この4月に設立された組織です。2020年の東京五輪を目標に、伊豆の首長たちと、伊豆全体を盛り上げていきます。